

# あごねっと便り 2016年 2月 Vol.24



平成28年 2月29日  
発行: ながさき県北地域医療教育コンソーシアム  
<http://agonet.jp/>

## 静岡済生会総合病院 研修医 1年 二階堂 有加

生まれて初めて訪れた九州・平戸。慣れない土地での生活に当初は淋しさや心細さが募り、戸惑うことも多々ありましたが、そんな私を平戸の方々は温かく迎えてくださいました。段々畑に透ける海と岩浜、歴史を想わせる教会、夜には満天の星空……美しい景色に、心優しい人々に、気づけば目も心も奪われていました。平戸の医療は地域の方々や患者さんの生活に寄り添っていて、用いられる知識や技術こそ最先端が導入されていても、どこか昔の時代の診察風景を想起させる空気を纏っていました。今まで“医学”を学んできた私たちは、どうしても“疾患”に目が向き、病気を見つけては治療しようとする。それが医師としての仕事でもあると思います。しかし、本当に診るべきは病気を抱えた“人”であるのだと、改めて実感しました。この地で多くの人に出会い、時に僻地医療の現実を目の当たりにし、様々な経験をしたことは、私にとって貴重な財産です。皆様のおかげで、1か月間楽しく充実した日々を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

## 横浜市立市民病院 研修医 2年 宮本 麻美

海と山に囲まれながらのびのびと1ヶ月間研修させていただきました。今回初めて自分の研修病院以外で働き、さらに場所は県内にあるはずなのに長崎空港から約3時間弱という僻地で、生活のスタートは不安ばかりでした。しかし住民の方たちはとても親切で、またご近所つながりが強く、お互いで助け合って生活している様子を見てすごく気持ちがほっこりしました。生活の場だけでなく、医療の場でも医師と患者が良好の関係を保っており、患者からの釣ったヒラメの差し入れには驚きました。研修は超高齢化社会では自分の病態を把握出来ていない人や家で寝たきり状態の人は多く、ご家族やヘルパーの協力の上で治療を行う人を多く診ました。そのため患者の生活環境を理解した上で治療を進めていく重要性を実感させられました。1ヶ月間、美味しい海鮮魚と澄んだ空気に恵まれながら、新しい医療現場を知り、学べ、充実した日々を過ごさせていただきました。お世話になった方々に心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

## 平戸市民 病院

## 日生病院 研修医 2年 枝廣 龍哉

今回の研修開始直後に名球会入りも確実を言われていた某有名プロ野球選手が覚醒剤所持で逮捕されるというショッキングなニュースがワイドショーを賑わせました。「心・技・体」は主にスポーツにおいてよく用いられますが、それは医療においても然りであり、技術だけ身につけるだけでは不十分です。今回の研修においてはある程度時間的な余裕もあったので、技(知識・手技)だけでなく極寒の中でのランニングにより体力・精神の底上げも行えました。また綺麗な星空、海、日の出、夕日で大阪での都会生活で汚れた心の洗濯も出来ました。

## 嬉野医療センター 研修医 2年 柴宮 夏子

## 生月病院

インフルエンザの流行中、1か月間研修しました。外来診療で新患に当たらせてもらい、考えていくプロセスを学べたことは、後期研修に向けてもよかったと思います。往診や訪問リハビリ、学校保健、介護認定審査会などにも参加させていただき、地域での保健活動を知ることができました。腹部エコーをしたり、グラム染色をしたりと普段の診療では技師さんをお願いして結果だけみてしまうことも、教わりながら実際に行うことができました。また魚が大変おいしく、調理方法を検討したり、漁師の方にさばき方を教わったりと、勉強になりました。指導医の方々や生月病院のスタッフ皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。